

東京都千代田区神田駿河台3-2-11
総評会館1階 原水禁気付
「さようなら原発 1000万人アクション」
実行委員会
電話 03-5289-8224
FAX 03-5289-8223

さようなら原発 1000万人ニュース

第5号
2012年1月10日



呼びかけ人や福島からの参加者を先頭にデモ行進(上)。会場の日比谷公園野外音楽堂は5500人の参加者で満杯に(下右)。オープニングは元頭脳警察のPANTAさん(下左)。

東京・日比谷集会に五五〇〇人が参加 市民の力で政府を動かして脱原発を実現しよう!

私たちは一二月一〇日、東京の日比谷公園野外音楽堂で、「がんばろう! さようなら原発一〇〇〇万人署名一二・一〇集会」を開催しました。集会には首都圏を中心に五五〇〇人が集まりました。

オープニングコンサートはPANTAさん。司会は講師の神田香織さん。最初に鎌田慧さんと大江健三郎さんが呼びかけ人を代表してあいさつしました。次に、中尾こずえさん(駅前アクション)、平野都代子さん(パルスシステム)、谷大二さん(カトリック正義と平和協議会会長)が、各団体の署名活動を報告。最後に大賀あや子さん(福島在住)、竹中柳一さん(福島県平和フォーラム代表)の二人が、福島への思いを語りました。

集会終了後のデモ行進では、東電本社前や銀座を通じて、脱原発や福島の人々への補償を訴えました。

今号は、集会の様子を、ダイジェストでお送りします。

鎌田慧さん

呼びかけ人

この美しい空の下にも、ストロンチウムなどの核物質が流れているのではないかと、公園を通りながら思っていました。こんな平和な風景の中でも、私たちは恐怖を感じながら生きていかなければならないのです。福島では、どのような状態になっているのでしょうか。子どもたちは、どうなっているのでしょうか。想像するだけで、胸が痛くなります。

原発はいらない！ 原発はさようならだ！ というのが私たちの運動です。これからますます広がろうとしています。既に原発には、決着がついています。これ以上、新增設ができる状況ではありません。いかに早く原発を止めるのか、廃炉に向かって進むのか、そういう状況になっています。日本には五四基の原発があります。しかし稼働しているのは、八基しかありません。これは原発が、電力の供給には全く寄与していない、いつも故障しているということです。そう



した不安定な原発に依存している、なおかつ爆発と放射能汚染の恐怖がある。

そういうことを選んでしまったのです。私たちが選んだのはありません。政府が選んで、押し付けてきたのです。それに対して、あまりにも無関心で考えなかったことが、突き付けられています。

これから、どういう被害が、子どもたちに残るのでしょうか。一〇年・一〇〇年・一万年と残り続ける放射性物質と、子ども、子孫たちがどう付き合うのか。そういう問題も突き付けられています。速やかに、危険な原発から停止させる。廃炉にする。そのための一

〇〇〇万人署名運動です。

「もんじゅ」を止める、それから青森県の再処理工場を止める。これらは日本が核武装する物質的な基盤です。「もんじゅ」や再処理工場が無ければ、日本は核武装できません。

原子力発電は、原子爆弾から生まれしました。それだけではありません。原子爆弾は、原子炉から生まれます。高速増殖炉を動かしてプルトニウムが作られていくのです。そのため日本の政治家や首相は、これまで一切、原発は作らないとは明言していません。原発を研究すると言っています。こういう危険な状態にありながら、私たちは無関心であったと思います。

一〇〇〇万人署名を政府にたたきつけて、原発をやめさせましょう。原発に賛成する政治家は選ばない。原発に賛成する政治家は落とす。そして早く平和な社会にしましょう。

まだ二〇〇万しか集まっていません。あと八〇〇万です。三月二四日にこの場所で、集約集会を開きます。それまでに一〇〇〇万以上を集めて、国会に持っていきましよう。

大江健三郎さん

呼びかけ人

九月一九日に明治公園で行われました、「さようなら原発五万人集会」に、私も参りました。実際には六万人を超えたのであります。この大きな人波を見て、これは私がいままでの人生で見た、二番目に大きな集会だと思いました。

今までに見た最大の集会は、二〇〇七年九月に沖縄県宜野湾市の海浜公園で行われた、「教科書検定意見撤回を求める九・二九県民大会」でした。一一万の人々が集まりました。沖縄の人口と日本全



体の人口を比較しますと、一一人の集会は一〇〇〇万人の集会と同じなのです。

教科書検定は、沖縄の人々にとっては、非常に根本的に大きな問題でした。沖縄は、日本国内で唯一の地上戦が行われた場所です。その戦争について、特に日本の軍隊が戦争の末期に沖縄で行ったことに対する事実が、教科書から省略されてしまった、ほとんど無くなったことに抵抗する人々の集まりでした。日本国の人口と対比すると、一〇〇〇万人を超える集会だと申しましたが、参加した人々の数よりも、多くの人々の願いと怒りを持った集会でした。

それ以前にも大きな集会がありました。一九九五年の米兵による少女への暴行事件に抗議した県民集会には、八万五〇〇〇人が集まりました。この集会での県民の意志表示は、非常に大きなものでした。若い人たちが、戦争を経験した人たちのあいさつは、大変素晴らしいものでした。そのことが、沖縄の米軍幹部たちの関心を強く惹いたのです。

それまでは、沖縄の人々が



どのような危機感、怒りを持つているのかは、鉄条網の向こう側には伝わっていないかったと思うのです。

沖縄の人々の思いを知った人々が、アメリカ側で非常に良い委員会を作ってくれました。戦後に日本でできた、アメリカ側の委員会としては、もつとも妥当で公正で優秀な人々が集まった委員会でした。そこで普天間基地を移動させなければならぬことが決定されたのです。

しかしそれから二〇年近くが過ぎようとしています。いまも普天間基地は動かないままです。普天間基地は動かさなければならぬ、しかし

辺野古では基地を受け入れられないということがはつきりしています。ところが、それに対して日本政府は、「なんとかなる」ということを言っています。それを信じていないのは、沖縄の基地にいるアメリカ軍の将校たちです。またアメリカ本土の政治家たちにも知られています。

一〇〇〇万人署名について、一〇〇〇万人という数考えたのは澤地久枝さんです。彼女は「一〇〇〇万人が原発はいやだと署名したら、政治家たちは無視することができないでしょう。一〇〇万ではダメです」と言っています。

一〇〇万人ではだめでも、一〇〇〇万人なら何とかかなると彼女が思った理由には、心の中に沖縄の十一万人の集会があると思うのです。それが日本で行われるならば一〇〇〇万人でなければならぬ。だからまず署名をしようということだと思えます。

◇ ◇
二月六日の衆議院本会議では、ヨルダンや韓国などの四か国と、それぞれに結ぶ原子力協定を可決しました。この協定

は、日本がこれらの国々に、原発をはじめとして原子力関係の資材や技術を輸出する前提となるものです。参議院では、既に三月に可決されています。その後、衆議院議員たちは、可決をためらっていません。それは日本の市民たちの、原発事故に対する大きな自然な反応があったからです。

そして八か月経って、いや八か月しか経っていないのに、日本の政治家たちの受け止め方は、また三月二日以前に戻ってしまったのです。原発の外国への輸出を平気で決定するといふことが、八か月の間に行われてしまったのです。そうしたことを考えていたかと思えます。

この八か月間は、原発事故のつかない恐ろしさが、明らかになってきた八か月間でもありました。

日本人の政治家が良く使う言葉に、「粛々と」という副詞があります。最近有名になった「これから犯す前に、犯しますよと言いますか」という言葉がありました。この高級官僚は、正確には「やる前に、やる」と言わない」と言ったと

防衛省に釈明したそうです。犯す前に犯すとは言わない。それで恐ろしいことを政治家がやることを、「粛々と」と言うのです。黙って粛々と行うのが日本の権力者たちのやり方です。一方で国会は、福島原発事故がいつ収束するのかわからない段階で、世界の国々へ原発輸出をしようとしているのです。

三月一日の直後には、政治家も反省の発言をしています。いまや反省の声は、誰からも聞こえてきません。粛々と、原発を輸出するのみになつたのです。

◇ ◇
私は、こういう揺れ戻しの始まった中であって、原発を廃絶しようという根本の決意に立った運動がある、そののみが頼りだと考えています。その市民たちの動きのみが、現在と未来の全てを担っているのだと考えております。

「署名が何の役に立つのか」という声もあります。しかし心をこめて自分の名前を書いた一〇〇〇万人がいるのです。その一〇〇〇万人が次の選挙で政治家の名前を書く際

には、不注意な選択はしないと、思います。私は次の選挙は変わってくると思えます。

そして、原発について発言してこなかった、あるいは発言してもその声の伝わることのないかたの本当の専門家たちが発言を始めました。さらに福島島の経験を語る方たちも増えてきました。私はそれに希望を託しています。

私たちはそれらの声に学びながら、「粛々と」ではなく、お互いに声を出し合いながら、進みたいと思えます。また政治に後戻りさせないために、私たちも後戻りしないように、法律を一つ作りたいたいと思えます。そのことを討論していただきたいと考えています。



大賀あや子さん

福島県在住

九月一九日の集会での武藤類子さんのスピーチは、私たちを代表して、勇気を与えてくれるものでした。反響が伝わっている、さらに多くの方々にご支援いただいております。ありがとうございます。

放射能の減少が進まないのは当然ですが、秋から冬の季節風が山の汚染を拡散させて、放射線量が上がっている地域もたくさんあります。除染活動に期待しても、あまり放射能は下がりません。除去した土や草の保管、作業の負担や被ばくなど、困難なことも明らかになってきています。農産物の汚染も次々に明らかになっていきます。真実が隠され、人と人が分断されていく。この不安がいったいいつまで、どれほど続くのか。この先の見え無さに、疲れ、途方に暮れてしまうことがあります。

脱原発については福島県内では方向が決ってきています。一月二〇日、県議会は、県内の原発全一〇基の廃炉を求める請



願を可決しました。一月三〇日には知事が、福島県の復興計画に、県内の全原発の廃炉を明記することを表明しました。

これは、県民大多数の、もう原発はいらないという世論を受けてのことです。しかし日本全国で、いまま運転中の原子炉や、再稼働がはかられている原子炉があることは、私たちの不安と恐怖を増すものでしかありません。また放射能が降ってくるかもしれない。また家を出て避難することになるかもしれない。こんな恐怖があるうちは、私たちの非常事態は終わりません。

どうか日本中、世界中で皆さんとつながりあって、一日も早く脱原発が果たせるように願っています。ありがとうございます。

竹中柳一さん

福島県平和フォーラム代表

私は南相馬市、福島第一原発から二四キロの所に、三月一日以降も、住んでいます。

いま私が首からぶら下げているのは、五月二日以来、身につけている線量計です。いま九七マイクロシーベルトです。勉強したところによれば、私の六〇兆個の細胞の一つ一つに、放射線が通過したという量です。五月二日以来受けている外部被ばくです。

しかし三月一日から五月一日までの被ばく、セシウム・ヨウ素などの吸い込みや、食べ物などから入っている内部被ばくについては、分かりません。県からは調査が来ていますが、私は出していません。なぜなら、そうした行政からの調査が、基本的によろしくに使われるのが信用できないからです。これは多くの福島県民の思いも同じです。

こういう状態の中で、不安と恐怖におびえているのは、子どもであり母親です。一〇月現在で、幼稚園から高校まで

含めて、一万一九八八人の子どもたちが、県外の学校に転出しています。残った子どもたちについては、各市町村が独自の判断で線量計を付けて、その結果を集計しています。これが一〇〇マイクロシーベルトになった、七〇〇マイクロシーベルトになったという報告があります。しかし、対策が全くありません。国は、市町村が勝手にやっていることとして、お金は出すが、その先の対策が無いのです。

新米から、セシウムが検出されています。農家の人々は、自分たちの作ったお米を、子どもたちに食べさせることができないのです。

漁業はもつと深刻です。一切、操業していません。阿武隈川の河口からは、東電が四月に海に放出した汚染水に匹敵する、五〇〇億ベクレルという放射性物質が出ています。

三月一日は日本が歴史的に変わる日だと、マスコミや政治家が言っていたはずですが、しかし全く変わらない。原子力協定が昨日、参議院で可決されました。民主党で棄権した議員は二人しかいません

でした。日本のことを考えていないのか、福島のことを考えていないのか、そういう怒りで一杯です。

東電は、放射性物質は土地所有者のものだと主張しています。これほど苦しんでいる放射性物質を、その土地のものだと言うのです。原子力安全委員会や保安院では、誰一人クビになっていません。何が変わったのでしょうか。これを変えない限り、日本に、子どもたちに未来が無いと思っています。

三月一日に郡山市で、県民集会を行います。福島のことを日本に発信し、福島のことを日本全体で共有する集会にしたいです。そのことを申し上げて、報告いたします。

